

おはようございます。現在、午前9時15分。雪が降って来ました。

先週末、本校の先輩にあたる、横山豊介さんから彫刻の寄贈をいただきまして、その披露式を体育館で行いました。

横山さんは、1930年、昭和5年に旧井波町本町にお生まれになりました。

1948年、昭和23年、金沢美術工芸大学彫刻科に入学。在学中となる翌年、日展で作品「母の顔」で初入選されました。卒業後はお父さんに弟子入りされ、昭和42年、第10回日展で特選。以後も日展各賞の受賞を重ねられ、平成22年には、文部科学大臣賞を受賞されます。

また「木彫りの町」としての井波の発展にも尽力され、1984年、昭和59年、アメリカ合衆国元大統領ジミー・カーター閣下が井波町に御来訪された際、瑞泉寺をご案内して井波彫刻の説明をされておられます。

こうした功績が評価され、昭和50年には富山県文化功労賞、平成3年には地域文化功労者文部大臣表彰を受けられました。代表作は、今回寄贈していただいた「禱り」やサーカスなどのシリーズを含め、多数あります。私も、アトリエに立ち入らせていただいたのですが、玄関先から彫像がずらりと並ぶさまには圧倒され、制作に使用された数多くのノミなどの道具は迫力を感じました。本当に、すさまじいまでの熱気と情熱を肌で感じる空間でした。

寄贈作品のタイトルは「聖なる禱り」です。横山さんが制作された彫刻、禱りシリーズ中の1点で、作品には「平和であることへの祈り」が込められているとのこと。この作品は、憩いの部屋に置かせていただくこととしました。彫刻に用いられている塗装は肌に悪いものではないとのこと、作品には優しく触れてもよいこととし、間近で眺めたり触ったりしながら芸術性を高めてくれることも期待したいと思います。

横山豊介さん、この度は素敵な作品の寄贈をありがとうございました。母校である後輩たちの活躍を、作品を通して見守っていただけると幸いです。

お会いできることを楽しみにしています。

どうか、お身体を大切に。